



「までい」の思い出

— 生活に息づいていた「までい」 —

伊東シミイさん
(関沢)

「までい」といえば、やっぱり一番は食べ物のこと。昔は買って食べるということができなかった時代でしたから、家の修理などで職人さんに来てもらった時など、お昼に出すものがなくてどうしたらいいか困ったものです。ほかにも、子供たちのおやつは、うどん粉にかぼちゃやさつまいもを細かく刻んだものを混ぜ、それをふかしてカステラのようにしておやつにしたりしました。だからでしょうか、カステラは今でも息子たちの好物の1つですね（笑）。食べ物を粗末にできなかった時代、食べ物を「までい」においしく食べるために、様々な工夫がいつもあったように思います。

以前こんなうれしいこともありました。娘の子ども、つまり孫が1月ほどわが家に来ていたことがあり、ご飯のとき「米ができるまでは1年かかるんだから、こぼしたご飯もちゃんと食べるんだよ」と言ったことがありました。その後娘から「子どもがね、おばあちゃんにご飯はこぼしたのも残さず食べろって言われたと言って、ご飯を残さずきれいに食べた」という話を聞かされ、ああ何か大事なことが解ってもらえたような気がしてとても嬉しかったですね。

今は、物が豊かになって何でもある時代。便利になってとてもありがたいことです。私もおかげ様で楽をさせてもらっています。でも、当時の暮らしの大変さはいつまでも覚えているものですね。



▲今回、寄付金を使って購入された車両。側面には「この車は村民からの贈り物です」と文字が書かれています。

いいたて福祉会

みなさんの善意で ニーズに対応

ヘルパー車2台購入

7月17日、いいたてヘルパーステーションに訪問活動車として軽自動車2台が納車されました。

この自動車は、今までにいいたて福祉会に寄付されたお金を、地域福祉

サービスの向上という形で住民の皆さんにお返ししようと、寄付金を使って購入されました。

現在村内では、在宅におけるホームヘルプサービスのニーズが増加しており、今回購入したヘルパー車はこれらのニーズに 대응するための戦力として有効活用されることとなります。